

クサジョウカイモドキ亜科（甲虫目，ジョウカイモドキ科）における胚子態幼虫期

浅野 真

Makoto ASANO: The foetomorphic larval stage of malachiine beetles (Coleoptera, Melyridae)*

2-22-10-201 Shikiji, Suruga-ku, Shizuoka, 422-8036, Japan
E-mail: m.asano20100402@gmail.com

甲虫目のジョウカイボン科 *Cantharidae* Imhoff, 1856とジョウカイモドキ科 *Melyridae* Leach, 1815 は全く系統の異なるグループであるが、両科のいくつかの種の個体発生において、胚子態孵化という共通の現象がおこることが知られている。この現象は、幼虫形態形成が完了する前に、卵殻破碎器の形成、卵殻破碎、そして孵化が起こるといふ発育様式で、過変態のような完全変態の特異的な変態であると解釈されている (Verhoeff, 1917; Asano, 2013, 2014; Asano and Kojima, 2013)。

演者はこれまで、様々な環境に生息するジョウカイモドキ科 3 亜科 7 属 7 種の個体発生を調査してきた。この結果、生息環境に関わらず、観察した全てのクサジョウカイモドキ亜科 *Malachiinae* Fleming, 1821 で胚子態孵化がみとめられ、この現象はジョウカイモドキ科では本亜科のみに共通する形質であることが示唆された。さらに、

胚子態幼虫期はワンパターンではなく、1 齢期のみと 2 齢期ある種が存在すること、後者は前者に比べ、孵化時の体各器官の形態形成が著しく遅れていることが分かってきた。

そこで、今回、胚子態孵化のみとめられたクサジョウカイモドキ亜科 5 属 5 種の孵化幼虫の体各器官の形成状態と行動を詳しく観察・記載し、それらを比較した。この結果、種によって孵化時の発育の進行度合はバラバラで一定ではなく、歩行・摂食が開始される齢期も異なる一方、どの種の孵化幼虫の背板にも 3 対の卵殻破碎器が一樣に存在していることが判明した。卵殻破碎器の形成タイミングが種によって異なっていることが、孵化時の発育の進行度合が不均一となる直接的要因となっていると考えられた。